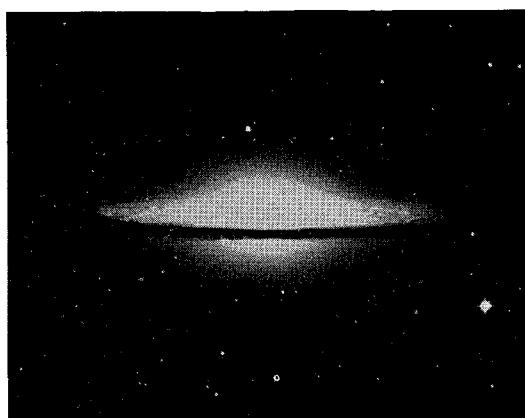


銀河めぐり [VI] M104=NGC4594

丸い形の橢円銀河なら、どの方向から見ようと大して変りばえはないが（異議ありの声も最近聞かれるが、天文月報73巻2月号51頁参照）、渦巻銀河はそうは行かない。M51が真上（face-onと呼ぶ）から見た銀河のミス・ユニヴァースなら、M104はさしづめ真横（edge-onと呼ぶ）から見た銀河のミス・ユニヴァースであろうか。いつ頃、誰が名付けたのか、その姿から「ソンブレロ」といわれている。

渦巻銀河は Spheroidal Bulge と呼ばれる球状の明るい部分と Disk と呼ばれる薄い円盤とからなる。このDisk の上にスパイラル・アームが巻いているのが写真でおわかりいただけようか。アームに付随している H II 領域は小さく、暗いため、長い間スペクトルの輝線が検出できなかったが、1978年、セロトロロの4m鏡でようやく検出でき、そのドップラー効果の大きさから Disk は 343Km/秒 の速さで回転していることがわかった。



Bulge 中心部の星の速度分散（星々の無秩序運動の大きさ）も 1980 年に測られ、253 Km/秒 と橢円銀河なみの大きさである。M104 は渦巻銀河の中でも一番大きな銀河の一つである。こんな大きなソンブレロを一体誰が被るのだろうか？ ひょっとしたら、ヘラクレスの帽子なのかもしれない。

目を Bulge の少し外側の Halo に転じてみると、そこには非常に暗い ($m_B \approx 22$) 天体がたくさん写っている。ソンブレロの球状星団である。最近、これらのスペクトルより金属量を測る試みも始まったとか。球状星団の動径分布はどうなっているのかとともに、待ち遠しい観測結果の一つである。渦巻銀河が生れる際、なぜ、Disk, Bulge, Halo 等に分かれてしまったのか、を解く鍵になるかもしれない。

（若松謙一）

◇ 6月の天文暦 ◇

日 時	記	事
5 22	芒種	（太陽黄経 75°）
6 12	下弦	
9 13	月	最近
12 12	海王星	衝
13 6	朔	
14 23	水星	東方最大離角
15 16	金星	内合
20 22	上弦	
21 15	夏至	（太陽黄経 90°）
21 15	月	最遠
28 5	水星	留
28 18	望	

